



事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内
Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com
URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索

入手先：青葉区役所、地区センター、地域ケアプラザ、区民活動支援センター、図書館、区民利用施設など

青葉区民のつどい2017 2月19日開催しました！ 「歩く人も交通—交通まちづくりを考える」



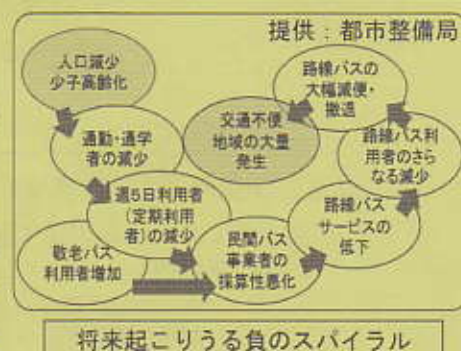
今回の区民のつどいでは、まちづくりの重要な視点として「交通」を取り上げました。住んでいる地域ごとに交通課題は当然違ってきます。年齢や生活スタイルの違いで不便に感じることも違います。区民の方々からこうした意見を直接聞く場として青葉区民のつどいを開催しました。



第一部基調講演「バスだけじゃない 青葉」

横浜国立大学理事・副学長中村文彦さんから交通まちづくりの課題や施策の紹介がありました。交通計画といっても、時代と共に「車両」から「人の移動」、さらに現在では「生活の質」へと焦点が変化してきたと説明がありました。例えば歩道幅に関して、車線数に準じて設定していたものから車線の多寡ではなく、人の往来や営みに配慮した歩道幅を設定する動きへ変化しています。また、街路の主演は「歩行者と自転車」。この考えを進めると歩いて楽しいまちのあり方が見えてきます。「何かを必要とすれば何かを捨てなくてはならない。」限られた空間の優先順位をどのように市民同士で折り合い、決めることができるか。まちづくりの主体としての市民が、自分たちの生活の質を向上させつつ、一人ひとりがどのような責任を持たねばならないのかが問われています。

第二部の情報提供では都市整備局都市交通課岡課長補佐から「横浜の交通を取り巻く環境と取組の方向」について説明がありました。超高齢社会に先駆けて、だれもが移動しやすい交通体系を考えねばなりません。高齢化は右図のような「負のスパイラル」を引き起こします。そうならないための施策が必要です。高齢者の自動車免許返納を進めるには新たな移動の仕組みが求められます。また青葉区の地形や人口構成にそった対策が必要です。交通まちづくりという考えは将来の青葉区に重要な視点であることが分かります。



4つのエリアに分かれて話し合い、次のような意見や報告がありました。



- *青葉区の坂もメリットへ。歩きたくなる街になって欲しい。
- *コミュニティに若者が住む工夫をすることで街の形が変わることを期待したい。大学とURの連携ができないか。
- *区役所がバスセンターになり、そこを通じて区内どこへでも行ける路線を。乗り継ぎ料金や区内東西移動を考慮して
- *交通体系や時刻表を通勤通学者から日中移動する人たちにシフトする。
- *青葉区（行政区）だけで考えず多摩丘陵文化圏といった人の移動や広域で考える時代へ。

区民会議の勉強会に参加しませんか？

【第42回横浜市区民会議交流会 (12/2/2016) 「いくつになってもチャレンジする 新しい社会をめざして！」

波止場会館4階大会議室という展望のよい会場で開催しました。今回は「今まで経験をしたことのない年齢構成の社会」を新しい社会と呼び、既存の枠組みを超えて自由な発想で考え、新しい社会を作っていくことをテーマとしました。高齢者がまちの担い手として活躍する新しい社会！さまざまな分野で、すでに実践されている3人のパネリストに登場していただきました。子どもの未来を信じて一緒に稲作づくりをされている保土ヶ谷区の畑達子さん、鶴見川に和船を浮かばせた舟運復活プロジェクト代表の長谷川武明さん、青葉区からは3丁目カフェを運営している大野承さんと何歳になってもやりたいことをし続ける、元気な方たちの話を聞くことができました。交流会報告書は区民会議ホームページで読むことができます。



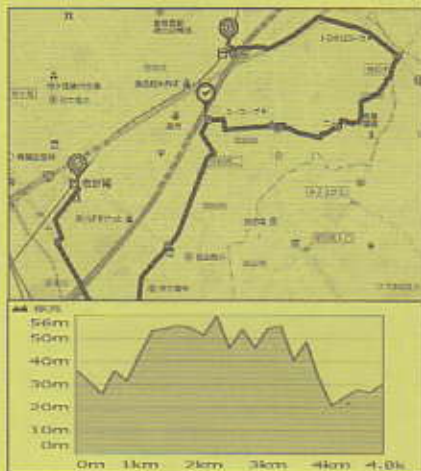
畑さん

長谷川さん

大野さん

【防災まち歩き 第3弾 荏田・市ヶ尾地区】(9/5/2016) (安全・安心・まちづくり部会)

美しが丘地区、恩田あかね台地区に続き第3回目は市が尾駅から江田駅までを歩くコースです。市が尾駅→養蚕指導者謝恩の碑→朝光寺→鶴見川谷本橋→ピアス市が尾(マンション)→ビッピ保育園→青葉スポーツプラザ→熊野神社→劔神社→大山街道(荏田)→江田駅



市が尾駅から鶴見川沿いへは高低差のある坂道を下ります。朝光寺の前の道路は鶴見川に沿った道で、このあたり一帯は浸水想定区域になっています。昨年の大雨の時は谷本橋のアンダーパス近くまで増水しました。ピアス市が尾マンションでは、敷地内の給水槽や在宅避難に特化した防災訓練の話をうかがいました。ビッピ保育園は、1階が保育、2階には認知症高齢者グループホームを併設。子どもたちと防災まち歩きを定期的に行ったり災害時に備えてさまざまな事業を展開しています。地域のリスクを歩いて観察することは適切な対応には欠かせません。自分の住むまちをしっかりと歩いて地域ごとの防災・減災対策に活かすことができるよう、防災まち歩きを今後も続けていきます。



【防災・減災公開講座 減災教室#1 (1/29/2017) 青葉区で災害リスクを考える！

減災アトリエ主宰、消防防災科学センター防災図上訓練指導員でもある鈴木光さんを講師に「my減災マップ」を使った防災ワークショップを開催しました。

《my減災マップを使う利点》

- ・自分の地域の減災マップを自分で作ることで、災害を「自分ごと」にします。
- ・自分の地域(災害リスク、資源や情報)を再認識するきっかけになります。
- ・自分で作ったマップ(A3サイズ)を人に見せて情報を共有できます。
- ・同じ地域の人が集まって、情報を伝え合い、地域の防災力を高めます。
- ・同じ地域内で助け合い情報を互いに書き込むことで支え合いの基盤づくりに役立ちます。
- ・さまざまな災害リスク地図を重ねて書き込むことができます。



指示どおりに色別シールを貼ります。

- ・新しい災害情報を足して常に最新のマップにすることができます。
- ・想定訓練をする際の材料になります。

一家にひとつ「my減災マップ」を用意しておくことを広めていきたいですね！



この「my減災マップ」についての質問・問合せは
Email: mail@aobakuminkaigi.com まで

今回は4枚の地図を重ねて使いました。 ①防災関連施設表示・想定震度
②土砂災害危険箇所 ③航空写真 ④浸水想定区域(洪水・内水)

区民会議は青葉区の‘今’と‘これから’の課題を共有します

青葉区内の「みどりアップ」を見に行ってきました（自然・環境部会）

横浜市では「緑豊かな横浜を次世代に」引き継ぐために2009年度から「横浜みどり税」を実施し、これを財源の一部に横浜みどりアップ計画に取り組んでいます。この施策がどのように推進されているかを現地で確認しました。

(1) もえぎ野ふれあいの樹林 （まちの森をみんなで育てている現場）

横浜みどりアップ計画では、市内の森の減少をくい止めるため、土地所有者の方々と契約を結ぶことで緑の保全を進めています。また、その森の緑の質を高める維持管理に取り組んでいます。「もえぎ野ふれあいの樹林」（約1.4ha）は藤が丘駅より約5分、街中の静かな森で、住宅地内の緑のオアシスとなっています。1998年に開園、同時に地域の住民から成る樹林愛護会が発足し、現在35名の会員が樹林内の整備、外周の草刈り、清掃、植物調査などの維持・管理活動を行っています。また、「樹林まつり」などの地域向けのイベントを開催、小学校の子供達の環境学習の支援を行うなど地域とつながりのある活動も展開しています。2014年度に市と協働して「もえぎ野ふれあいの樹林保全管理計画」をつくりました。起伏に富んだ樹林内を歩いてみると、訪れた人々が安全に散策できるよう階段やロープ柵が整備され、植物には名札が付けられていました。10年後を見据えて計画・作業がされ丁寧な手入れによってさまざまな花・木々が残され、昆虫や動物のすみかになっています。横浜みどり税が有効に使われている実感を持ちました。



(2) 柿の木台地区 （地域緑のまちづくり）「地域緑のまちづくり」とは地域住民と横浜市が協力して、地域にふ



さわしい緑を創出する事業です。柿の木台地区は2014年度に青葉区では初めて手を挙げ承認された事業となりました。推進団体は「やもと農塾」で、代表の工藤昇さんが「水田のある風景を残したい」という思いで活動をスタート。その中で、地域のためにさらに何かできないかと考え、2014年に「地域緑のまちづくり」事業に応募し、活動を始めたそうです。現在、会員10名で活動しており、手作りのベンチ付お花箱（プランター）による地域の緑化や、当地由来の柿の木の植樹、「大山道」を中心とした散歩道の策定などを目指し、柿の木台町内全体が近隣地域

の「心の里山公園」となることが最終目的だそうです。町内を歩くとまちのあちこちにベンチ付お花箱が設置されていました。花と緑が多いというまちの景観面のプラス効果だけでなく、高齢者や幼い子ども、重い荷物を持つ方などが、ちょっと休めるベンチがあちこちにあるということも、魅力あるまちづくりに貢献しているのではと感じました。



青葉区地域福祉保健計画の中から （健康・福祉・教育部会）

横浜市地域福祉保健計画には市全体の計画（よこはま笑顔プラン）と各区の計画があります。当部会は青葉区の「青葉かがやく生き生きプラン」（2016年3月策定）をベースに実施計画の主体である地域ケアプラザを順次訪問、実態の調査を行いました。今期は4か所のケアプラザとの意見交換を行うことができました。ケアプラザ共通の課題を見出すために、訪問できなかった所には行事内容や集客状況などの情報をいただきながら活動を継続しています。地域ごとに多少の違いはあるものの共通課題としては、行事の広報周知のむずかしさや、利用者のアクセス（遠いなど）、ケアプラザ行事参加への最初の一步への戸惑いなどがあるようです。2000年に施行された介護保険法も近年数回にわたる改正が続き、それに伴う検討項目は多岐にわたるようです。



また、「介護施設職員の処遇改善」については厚生労働省が「2017年度に介護職員の処遇改善に向けた臨時の介護報酬改定を行う」とし、改善が期待されます。

学習会では健康福祉問題を取りあげ、医療法人社団明芳会、横浜新都市脳神経外科病院の協力で「脳卒中の現状」「危険因子と予防」「一瞬を争う状態の発見」「生死分ける数分間」「後遺症対策」などをテーマに4回開催しました。

区民会議の広報活動

区役所区民ホール展示（10/11-10/14/2016） 区民まつり（11/3/2016）

初めての試みとして区民会議活動紹介パネル展示を行いました。3部会の活動のほか、9期から11期までの区民会議ニュース（32号～45号）も紹介しました。また恒例の区民まつりでは区の街路樹クイズや減災クイズなどを実施し、たくさんの区民の方に参加していただきました。



区民会議はみなさんの意見をお聞きます

【6月勉強会】6/15/2016 「青葉区まちづくり指針」都市計画マスタープラン・青葉区プラン改定案案説明

6月に公表された素案について区政推進課高西係長から説明を受けました。どの部分が前回からの変更箇所なのか確認をしながら質疑応答となりました。この勉強会を通してさらに7月には区民会議から「多世代を対象としたまちづくりへの具体的な取り組みはどのようなものがあるのか掲載する」「青葉区まちづくり指針の書き方として、今後、地下鉄延伸や道路などを考えると横浜市の中だけでなく関東エリアでの青葉区という要素を入れた青葉区指針とし、そのためにも広域連携という視点をいれてはどうか」「地域ニーズなどは住人向け会合を開き集めて欲しい」といった提案を提出しました。（現在原案を都市計画審議会へ付議）



青葉区まちづくり指針 平成14年策定



【9月勉強会】9/29/2016 青葉区運営方針を聞く

毎年区版広報4月号に区の主要事業や区の運営方針が掲載されます。その中でどれを重点的に計画しているのか直接、区政推進課鈴木課長から説明を受けました。区民会議では行政との情報交換の場を設けています。

【11月勉強会】11/24/2016 コミュニティリビング推進事業の3年計画の内容について

区政推進課吉田課長から青葉区の現状調査の結果報告やデータなどの情報をお聞きました。

【12月勉強会】12/22/2016 Local good Yokohama

横浜コミュニティデザイン・ラボ代表理事／ヨコハマ経済新聞編集長 杉浦裕樹さんに横浜の地域資源（ヒト／組織／拠点／制度／プロジェクト）や情報を市民の「共有財」として「まちづくり」にどのように活用するかITを使った仕組みを説明していただきました。「情報は発信するところに集まる／情報は関心があるヒトから関心があるヒトに伝わっていく」これはまさに区民会議の機能に通じます。超高齢化・人口減少時代に突入し、社会コストが増えます。行政だけで課題は解決できません。これからは、横浜市全域で加速する課題を区ごとに対応できる仕組みが必要となります。



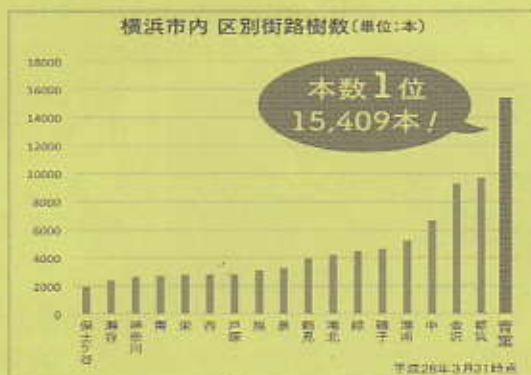
オープンデータ活用プロジェクト報告 次の3つの課題解決をデータを使って考えます。

1. 安全なまち青葉を創るためには～交通事故の背景 データとマップで考える
2. これからの青葉区のまちづくりに必要なものとは ～東急開発50年と共に一将来を考える
3. 青葉区の緑を増やすためには～緑が大切と感じる人(緑サポーター)を増やす

「まちの安全度」はどのような数値で測ることができるでしょう。たとえば交通事故発生場所や事故原因と地域の高齢化率は関係するでしょうか。青葉区の発生交通事故（2016年1月～2016年11月）765件の内、高齢者関連は226件。約30%を占めています。この発生状況をマップに書きだすことで対応策へのヒントが見えてくるかもしれません。また、青葉区内には200以上の公園があり、街路樹数は市内でダントツの1位です。街路の緑や街中の緑をまず定期的に緑視率で測りデータを積み上げる。そこから次の一步を探ります。

《青葉区オープンデータ紹介コーナー》

青葉区で保有しているさまざまな行政データが、グラフやマップに利用しやすい形式（エクセルなど）で公開されています。「なるほどあおば2016」ではこのデータを使って青葉区の緑を分かり易いグラフにしています。冊子は区役所で入手できます。



区民会議では毎月勉強会を開催します。内容やスケジュールについては青葉区民会議ホームページでお知らせします。参加希望の方は区役所広報相談係へご連絡ください。

青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて

青葉区役所 1階広報相談係へ Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール: ao-koho@city.yokohama.jp